

防衛相 答弁詰まり 首相と交代

十四日の衆院予算委員会で、稲田朋美防衛相が答弁に詰まり、代わって安倍晋三首相が答弁に立つ場面があった。質問した民進党の辻元清美氏は「防衛相が答えずに首相が出てくる。蚊帳の外大臣」と言われかねない」と批判した。

辻元氏は、南スーダンでの政府軍と反政府勢力の対立を日本政府が「戦闘」ではなく「衝突」と表現していることを受け、シリアでの過激派組織「イスラム国」（IS）などによる内戦は戦闘か衝突のどちらなのかとただした。

「戦闘」表現 民進「蚊帳の外大臣」

稲田氏は「法的な評価をしていない」と説明したが、辻元氏は納得せず繰り返し追及。すると首相が割って入り「ISに対する軍事作戦の後方支援はしないから、憲法との関係で（戦闘行為に当たるかどうか）考える必要がなく、検討していない」と説明した。

稲田氏は、新型輸送機オスプレイの購入計画でも、金額などを即答できずに審議がたびたび中断。民進党は稲田氏の資質に問題があるとして、集中的に論戦を仕掛ける方針だ。（横山大輔）